

名称

董・鯉江東地域包括支援センター

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設 (居場所づくり等)
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援	<input checked="" type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
	<input type="checkbox"/> その他 ( )	
活動テーマ	関係機関の連携・支援力強化と早期発見の体制構築	
地域ケア会議から 見えてきた課題	1. 対象者の8割が認知症を有し、金銭管理・近隣トラブル・生活困窮など一人で複数の課題を抱えている 2. 介入時に課題が重度化していることが多く、支援を必要とする高齢者が潜在化している 3. 被害妄想、支援拒否、支援者にたいして攻撃的など、対応に苦慮するケースが増えている	
対象	地域住民 地域関係者 医療・介護・福祉の専門職	
地域特性	<p><b>【関目地域】</b>地域活動協議会で高齢者台帳が作成され見守り相談体制も構築されている。この数年は独居高齢男性の相談が増加傾向にある</p> <p><b>【関目東地域】</b>市営住宅の高齢化が顕著にあり住宅からの相談が増えている。令和3年度は虐待相談は多くあり圏域で受理した半数以上のケースが関目東地域であった。</p> <p><b>【董地域】</b>圏域の中で人口が最も多く相談件数も多い。支援拒否や被害妄想など介入困難な事例多く、令和3年度に開催した地域ケア会議の4割程度が董圏域の事例であった。</p> <p><b>【鯉江東地域】</b>ラジオ体操や歩こう会など住民主体の活動が積極的に展開されている。センターから離れており来所での相談は困難と思われ、地域に出向いての相談会や実態把握訪問などアウトリーチ活動を実践している</p>	
活動目標	1. 認知症や精神疾患の理解啓発と専門職連携による適切な支援の実践 2. 早期に相談につながる体制強化 3. 地域住民のフレイル予防	
活動内容 (具体的取組み)	<p><b>【①の活動内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学生や金融機関を対象に認知症講座を実施。区民を対象に認知症予防講演会や認知症ケアフォーラムを開催した。</li> <li>・専門職間の連携強化と適切な支援の実践のため、積極的に地域ケア会議を開催 (R3.20回)</li> <li>・権利擁護について共通認識をもてるよう研修会もおこなった</li> </ul> <p><b>【②の活動内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括支援センターと brunch の連絡先が記載された介護保険者証ケースを作成し、各連合のご協力のもと敬老お祝い品とともに高齢者へ配布。</li> <li>・地域包括支援センターだよりを毎月発行し、各町会での回覧や薬局への配架、ポスティングなどにより相談窓口であることの周知と情報発信を年間を通して実施。</li> <li>・身近な地域で相談できる機会として、司法書士や行政相談員とともに出張相談会を開催した</li> </ul> <p><b>【③の活動内容】</b></p> <p><b>関目地域：</b>ラジオ体操の実施 (火・木) 理学療法士による正しい歩き方講座実施</p> <p><b>関目東地域：</b>健康ウォーキングの開催 (下半期)</p> <p><b>董地域：</b>健康ウォーキングの開催 (上半期)</p> <p><b>鯉江東地域：</b>ラジオ体操 (水) 歩こう会の立ち上げ ウォークラリーイベントの実施</p> <p><b>包括圏域：</b>予防教室 (俳句・太極拳) の活動支援を行い趣味活動を通じた社会参加による自立支援、生きがい作りの場を提供した。</p>	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	令和3年度は前年度に相談実人員が減少したことを受け、地域包括支援センターのさらなる周知拡大に取り組みました。令和3年度の実員は1,038人で令和2年度より110人の増加があり一定に効果があったと考えます。認知症や精神疾患についても積極的に地域ケア会議を開いたことで専門職の連携が強化され積極的にチープアプローチを実践することができました。コロナ禍ではありましたが、ラジオ体操やウォーキング教室、イベントの開催などで、地域住民のコロナフレイル予防にも積極的に取り組むことができたと考えます	
今後の課題	高齢者やその世帯が抱える課題は複雑で多岐にわたっています。「潜在化している高齢者の把握」「多職種連携の強化」「対応力の向上」に今後も取り組み、困りごとを抱えた方やその世帯に適切な支援が行き届くよう今後努めてまいります。また、コロナフレイルによる身体機能の低下から介護保険の新規申請の相談件数が増加しており、フレイル予防・介護の重度化予防に引き続き取り組むことも必要です。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和4年7月13日 (水)	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	<input type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性 <input type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性	
評価できる項目 (特性) についてのコメント *今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議会 からの意見等を記載。	小中学生や金融機関を対象に認知症講座を実施し、地域に積極的出向くのは支援の広がりにつながる良い取り組みである。地域包括支援センターと brunch の連絡先が記載された介護保険者証ケースを作成し、各連合のご協力のもと敬老お祝い品とともに高齢者への配布や、地域包括支援センターだよりを毎月発行し、各町会での回覧や薬局への配架、ポスティングなどにより相談窓口であることの周知と情報発信を年間を通して実施したことで、身近な相談機関としてよい取り組みである。	